

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

16. はたご屋『猫』(8), p.36

そのあわれな老人は次のように語った。「今お話しの時分からこの方、私どもは何から何までのろわれているようでございます。ご存知のようにアンパロは私どもの目に入れても痛くないほどの娘で、生まれたときから、と言ってよいでしょうが、ここで育ちました。あれは家中の喜びでした。息子も子供の頃からあの娘を好きになり、はじめは兄のような気持ちからでしたが、後になって愛情はもっと大きなものにかわりました。

ある日のこと、二人の紳士が馬車でここにやって来て、アンパロのことを根ほり葉ほり聞いていきました。アンパロは幼い頃私が養護施設からもらい受けた子でしたが、二人は捨てられていたときのおくるみを見せてほしい、と言うのです。私はそれをとっておいたのでございますが、それで結局アンパロはある金持ちの娘だということがわかりました。…あの娘が連れて行かれた日のことは思い出したくもありません」

*L1. -Todo-をどのように訳せばいいですか？線の意味は何ですか？

→老人が話し始めた言葉が線で囲まれて引用されています。実際には *todo* が強調されて 2 回言われたのかもしれませんが。そこで上では「何から何まで」という訳で強調しました。

*L1. *todo parece que se ha conjurado contra nosotros* はなぜ、「私どもは何から何までのろわれているようでございます」という意味になるのですか？

→*conjurar* は「(悪魔を)追い払う」という意味で使われますが、他にも「(霊を)呼び起こす」という意味でも使われます。また、*conjurar* は「(悪事を)たくらむ」という意味でも使われます。ここでは、具体的に人が「私たち」に悪事をたくらんでいた、というよりも、不幸が仕組まれてあった、というような意味になると思います。

*L2. 「今お話しの時分」は意識ですか？

→少し意識しました。la época que usted me recuerda「あなたが私に思い出させてくれた時期」の訳です。

*L3. la niña de nuestros ojos. 英語でも the apple of our eyes「最も好きなかわいがっているもの」という熟語があり、似たような熟語があることが面白いです。因みにこの熟語の源泉はどこにあるのでしょうか？

→英語の apple は昔は「瞳(ひとみ)」と「林檎」の意味がありました。「瞳(ひとみ)」は「とても大切な物」なので、比喩的な表現として使われるようになりました。スペイン語の...de nuestros ojos も同様です。

*L4. casi は desde que nació にかかり、その意識として「生まれたときから、と言ってよいでしょうが、」となるのですか？

→その通りです。Amparo が生まれた本当の日時や場所はわかりません。

*L8. la cual は訳例では訳されていませんが、何を指しているのですか？

→Amparo です。上の訳では、「アンパロは幼い頃私が養護施設からもらい受けた子でした」としました。関係節の説明的用法なので、前の文につなげて修飾するのではなく、新しく文を始めました。

*L9. pidieron は「見せてほしいと言った」という意味ですか？

→pedir は「要求する」という意味ですが、少し説明的に意識しました。

*L10. 「ある金持ちの娘だということがわかりました」というのは、ストーリー展開上からの意識ですか？

→動詞 resultar の訳です。これは「結局…ということになった(わかった)」という意味で使われます。

*L10. la abandonaron の主語は？

→主語を明示しない一般人称の複数形の用法です。具体的には両親であることも考えられますが、ここではそれを明らかにしていません。

*L11. siquiera の使い方を教えてください。

→否定の no とともに「…さえも…ない」という意味で使われます。

*L11. なぜ娘は二人の男に連れて行かれたのですか？金持ちの娘であることがわかったからですか？

→その通りだと思います。envoltorios などが証拠になったと思われます。

●EJERCICIO, p.37

(1) 私は彼の言葉が君の注意をひいたようには思えない。

(2) 私が大事だと思うのは、彼に本当のことを言うことだ。

* (2)decirle の le を usted と解釈してもよい。